



テレマカシー

vol. **20**
2009.4.20発行

テレマカシーとは? ▶ Terima kasih=インドネシア語で感謝を表す言葉。在宅で看取らせていただいたある方は海外旅行が大好きでした。その方が最期にご家族に残された素敵な言葉を使わせていただきました。



春の風景

新里町交差点付近の春景色

毎年通り行く人々の目を和ませる風景である。複数の花が咲き乱れる様子を写真に収めるカメラマンも少ない。



菜の花と葉桜(新里町)

【カタクリ】新里町の個人宅の庭に咲くカタクリ。庭に自生するのは非常にめずらしい。カタクリはユリ科の多年草だが、種から花が咲くまでには10年近くかかる。地中深くにある鱗茎からとれるのがカタクリ粉であるが、乱獲によって本物のカタクリ粉は貴重品となり、市販で売られているのはじゃがいものデンプンである。写真は午後撮影のため花弁が反っているが、朝のうちは花弁が適度に開いてさらにきれいだ。

お蔭さまで7周年

若葉の美しい季節となりました
この春、ひばりクリニックは
お蔭さまで満7歳になりました

最近、ご近所からの紹介や
以前の訪問先のご家族がみえるなど
ご縁を感じるが増えています

一期一会の出会いに感謝しつつ
これからも活動して行きます
今後ともよろしく願い申し上げます

ひばりクリニック・うりずん
高橋 昭彦



【つくし(土筆)】クリニック周辺の土手でみつけたもの。スギナの胞子茎であるつくしには大量の胞子が入っている。春の山菜として親しまれていて、袴(はかま)をとってゆでてから調理するとよい。なお、つくしを食べると花粉症の症状が改善したという話があるが、未確認情報である。



【さくら】「新川(しんかわ)の桜並木」といえば、宇都宮だけかと思ったら、札幌市や千葉県八千代市にも新川桜並木があることがわかった。宇都宮には全長600mの見事な桜並木がある。並木の下をゆったりと歩いたり出店で飲み食いできるのがいい。



【モクレン】宇都宮地方裁判所の玄関先に咲くハクモクレン(白木蓮)。今年はずぼみが膨らんだ直後に非情な霜にみまわれ、クリニック周辺のモクレンは花びらが茶色くなったが、市中にある裁判所のハクモクレンの白色は健在だった。



美しい若芽
(新里町)



『うりずん』 初年度を振り返って



❖ はじめに

重症障がい児者レスパイトケア施設『うりずん』は、お蔭さまでこの春、2年目に入りました。2007年度の研究事業を経て2008年6月にオープンしたうりずんでは、専属スタッフを配置して事業として預かりを行ってまいりました。ご家族に日中のレスパイトを提供する一方で、さまざまな課題も見えてきました。うりずんの初年度を振り返ってみました。

❖ 利用開始に際して

宇都宮市の委託事業であるため、市内在住で手帳（身障手帳・療育手帳）の交付を受け、人工呼吸器装着状態（区分A）または、経管栄養、たんの吸引、導尿が必要（区分B）という市の指定を受けないと利用できません。そのため医療的ケアを受けているが手帳を保有していない子どもの場合には、まず手帳の申請をする必要があります。特に乳幼児の場合、手帳の申請から交付まで最大3か月かかり、すぐには利用できない場合があることが分かりました。

❖ 利用者の重症度

2008年度の利用登録者は、1歳から16歳（2009年3月末時点）までの8人でした。内訳は、区分Aが3人、区分Bが5人でした。10か月で、のべ134人を預かりましたが、区分Aがのべ81人、区分Bがのべ53人と人工呼吸器をつけた子どもの利用が上回っていました。

医療的なケアなどをスコア化した重症障がい児・者判定スコアというものがあります。超重症児が25点以上、準超重症児が10点以上なのですが、利用者の内訳は超重症児5人（32～47点）、準超重症児3人（10～15点）と、全員が準超重症児以上でした。

❖ 主治医と訪問看護

大学病院7人、地域の基幹病院1人と、8人全員が病院に通院されていました。しかし、地域に在宅医・かかりつけ医がいるのは4人に過ぎませんでした。訪問看護を利用しているのは6人でした。

初回利用の前には、病院や訪問看護から情報をいただくようにしていますが、流動食の量や頻度、医療的ケアのやり方やけいれん時の対応などの実際は、お母様から情報を得ることも多いです。不定期の預かりであるうりずんでは病院や訪問看護との連携が重要です。

❖ スタッフの配置

宇都宮市重症障害児者医療的ケア支援事業実施要綱の運用基準によると、人員配置は以下のように定められています。

- ア) 看護師又は指導員の総数は、おおむね障害者等の数を3で除して得た数以上とする。
イ) 看護師 実数で1以上

つまり、定員が3人であれば、常勤看護師1人のみで基準は満たすということです。規定の配置ではとても足りず、常勤2非常勤1の配置としていますが、3人のお預かりのときはそれでも余

裕がなくなります。3人ともうりずんにとってなくてはならぬスタッフです。安全にお預かりし、ご家族に安心していただき、子どもも安楽に（楽しく）過ごすことを目指すためには必要な人員体制と考えています。

❖ 課題①▶ 経営状況

2008年度の10か月でのべ134人ですから、1か月あたり13.4人の利用ということになります。1か月の平均営業日を20日とすると、1日あたりの利用人数は0.67人、定員3人です。稼働率は22.3%でした。8人の登録者の利用回数は平均で1.68回でした。入退院が多くほとんど利用がなかった方から、毎週利用される方までありましたが、大半が月に1～2回のご利用でした。もともと臨時のレスパイトですので夏休みや春休みなど長期休暇の際はご利用が増えますが、冬の寒い時期は利用が伸びません。毎週定期利用があるデイサービスとはちがうなあ、というのが実感です。

開業費（改修工事約400万円、その他物品購入あり）や毎月の運営に対する補助はなく、お預かりしたときにいただく料金が収入のすべてです。直近の2009年1月から3月までの収入は885,000円、1か月平均で295,000円でした。人件費や運営経費（通信、光熱、水道、活動費など）などを勘案するとまだまだといったところです。

❖ 課題②▶ 誰が調整するのか

障がいをもつ子どもが使えるサービスには、さまざまなものがあります。しかし、医療的ケアが必要な子どもの場合、使えるサービスが限られており、親もあまり動けないことから、介護保険のケアマネジャーのように第三者が調整に動くことが期待されます。最初の問い合わせの多くはご家族からのものでしたので、宇都宮市の保健師やケースワーカー、障がい者相談支援専門員などに調整をお願いしました。中には、病院、療育機関、短期入所、教育機関などの調整が必要となるケースもあり、「小児在宅ケアコーディネーター」のような専門性の高い人材が地域に必要と感じています。うりずんでは、調整をする人への橋渡しを行うように努力しています。

❖ 課題③▶ 複数のサービスを組み合わせた送迎

ある人工呼吸器をつけた子どものお母様が出産なさることになり、1人での送迎が難しくなりました。そこで、地域で関わるスタッフがカンファレンスを開き、新しい動きができました。

人工呼吸器をつけた子どもが出かけるためには、「外出準備」が必要です。呼吸器の接続をはずし、子どもをバッグで人工呼吸しながらベッドから車椅子へ移し、回路もつなぎ変える一連の動作には2人必要です。加湿器、たんの吸引に使う吸引器、消毒液

や水、経管栄養で入れる流動食、着替えやおむつなども持参します。これらの支援のため、身体介護のホームヘルパーとして同時に2人お願いすることができました。

次は車です。身体介護を行うホームヘルパーは、その家の車を運転することはできません。運転は本来の業務ではないのです。そこで、ある個人の福祉タクシーを経営する方がそのタクシーで運転して下さることになり、ホームヘルパーが見守りのため同乗するという条件で受けて下さることになりました。

タクシーは送迎したら帰ってしまうため、もう1人のヘルパーさんが自分たちの車で代行車のように伴走してうりずんに向かい、乗り降りの介助を終えてから2人のヘルパーさんが車で帰るという段取りになります。



▲スロープをつかってゆっくと福祉タクシーに乗車

タクシー料金の問題(チケット枚数には限りがある)、送迎に関わるヘルパー事業所を複数確保するなど課題は少なくありませんが、皆が智恵をしばり外部のサービスを組み合わせることで、お母様が、玄関で子どもに「行ってらっしゃい」をする送迎が実現しました。

❖ おわりに

うりずんに大切なお子様を預けて下さっているご家族、遊びに来ている(実は預けられている…) お子様たちに感謝いたします。また、ボランティアとして支えて下さっている早川美奈子様、心温まるご寄贈・ご寄付をいただきました皆さまにもこの場をお借りして深謝いたします。

うりずんは小さな事業所です。いつも本当に多くの皆さまにご支援いただいています。これからご指導、ご支援よろしくお願ひ申し上げます。

*「レスパイト respite」とは、障がい児をお預かりすることによって、家族にほっとひと息つける時間を提供することです。

うりずん日記

うりずん サービス管理責任者
看護師 三上 綾子

4月に入り、うりずんも新しい年度を迎えました。昨年度からのご利用者様の中には、小学校への入学、受験を経ての高等部へ入学など新たなスタートを切った方々もいます。もちろん進級も嬉しい出来事です。

そのニュースを伺うことで、各個人が地域の中で確実に成長し、地域で生活を送っているということを感じます。

うりずんのスタッフは、それぞれの利用者・家族と知り合ってまだ1年も経ちません。それでも、とても長い時間を共にしてきたような気持ちになることがあります。不定期のご利用で、回数も月に数回程度と少ない関わりであるのに、なぜそのような心境になるのか……とても不思議な感覚ですよ。それはお

●2009年1月～3月のご利用状況

区分	1月	2月	3月	合計
A	10	9	10	29
B	3	4	8	15
計	13	13	18	44

* 区分A………人工呼吸器装着の方
* 区分B………人工呼吸器を必要としない方
* いずれも延べご利用人数です

●2009年1月～3月のご来所状況

	1月	2月	3月	合計
見学者	8	7	20	35
ボランティア	1	1	2	4
計	9	8	22	39

* ボランティアは延べ人数です

●現在の登録状況

区分A(人工呼吸器装着の方)	3名
区分B(人工呼吸器を必要としない方)	5名
合計人数	8名
契約準備中の方 区分A	0名
契約準備中の方 区分B	1名
契約準備中の方の合計人数	1名

* 登録ご利用者の年齢………1歳～16歳

●2009年1月～3月の寄付関係

ご寄付	2件
ご贈答品	1件

そらく、皆様がうりずんを頼ってくださり、いろいろなお気持ち(戸惑



▲かつのりくんのお昼寝



▲グッスリお昼寝(たかひろくとあかねさん)

ゆうきさんとたかひろくんの▶
チョコづくり「あと一息!」



いや不安、喜びや悲しみなど)を表出し、相談して下さるからではないかと思えます。その大切な瞬間に、共に立ち止まり、共に気

づき、考えるという経験は、私たちスタッフにとって貴重な出来事となり、印象に残るからなのかもしれません。

今後も可能な限り皆様の生活や成長に寄り添いながら、うりずんのスタッフとして関わらせていただければ幸いです。

*

さて、最近の活動の様子を少し紹介いたしますね。うりずんでは、月毎にテーマを一つ決めま

す。同じものを作ったとしても、利用者の個性に応じてそれぞれ

違った特徴が出ます。その作品を見たご家族は「自分の子どもの作品が増えることが嬉しい」と、とても喜んでくれます。スタッフの手が入り過ぎない作品……それが一番個性が出て素敵な作品に完成しますよね。



▲だいきんの演奏

そして、最近では自分の意思をはっきりと伝えて下さる利用者の方も増えました。気が乗らない活動の時は、眠ってしまう、物を握らない、手を動かさない、怒るなど表現方法はさまざまです。どんな方法でも意思を表出するという行動は、他人とのコミュニケーションを取る上で大切なことです。

うりずんでは、そのサインを見逃さないように今後も楽しんでいただける活動をしていきます。

わっどわ〜く

うりずん1周年記念!!

『ゆめかなえ隊』開催のご案内

ひばりクリニック併設事業所「重症障がい児者レスパイトケア施設うりずん」は本年6月に設立1周年を迎えます。

日ごろの利用では、ご利用者・ご家族が一同に集う機会がございません。つきましては、このたび日ごろよりご利用・ご指導いただいている皆様をお招きし、共に過ごしていただく場を下記の内容で企画いたしました。



▲うりずんの子どもの個性あふれる作品「だるま」のラインナップです

ぜひ、関心のあるお方はご参加ください。お待ち申し上げます。

日時 2009年5月16日(土) 受付 14:00～
場所 とちぎ健康の森 2階 多目的ホール・演習室AB
 〒320-8503 栃木県宇都宮市駒生町3337-1
 TEL.028-623-5858

内容 <第一部> 14:30～15:30 多目的ホール
 ◎ひばりクリニック院長挨拶
 ◎つぼみ座『人形劇』
 *室内履きをご用意ください

<第二部> 15:40～16:30 演習室AB
 ◎報告・懇談会『うりずんから見てきたこと』
 *心ばかりの飲み物・お菓子などをご用意しております
 *途中参加および退室も可能です

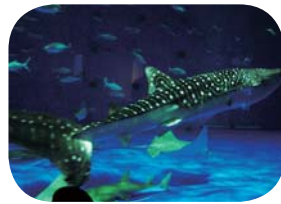
お申し込み・お問合せ先▶うりずん 三上・中川
 TEL.028-601-7733

「いおワールド かがしま水族館」に行ってきました!

日本在宅医学会が鹿児島で開かれました。在宅関係の仲間との交流は熱気あふれるものでした。会場の近くに「いおワールド かがしま水族館」があり、わずかな時間でしたが、海の生きもの行動展示を見てきました。



▲海底気分を味わえる黒潮大水槽



▲ジンベイザメの「ユウユウ」



▲迫力あふれるイルカプール



テレマカシー18号へ寄せられた感想から

● 末期がんの在宅緩和ケアについてですが、私は今消化器内科をまわってましてチームの患者さんに肝臓がんや胆のうがんの末期の方がおられました。皆さん当たり前のように家から近い病院に転院されますが、おうちにお帰りになりたい方はいないのかなーと考えていたところにテレマカシーの記事を読ませていただきました。

● 私はまだ学生なので、そのような患者さんの相談にのることはできませんが、地域で働くようになったら、ターミナルの患者さんがおうちで過ごせるようなネットワークを築きたいと考えました。
 (自治医科大学医学部 6年 坂本愛さん)

♥ テレマカシー発送用に切手をお送りくださいました皆さん、ありがとうございました。<(_)>

「ひばりクリニック」のご案内

● 診療時間 ●

時間	日	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	(休診)	○	○	(休診)	○	訪問診療	○
午後 (在宅医療)	(休診)	訪問	訪問	(休診)	訪問		訪問

● ひばりクリニックの運営理念 ●

- 1) 在宅で過ごされるご利用者に出前の医療を提供すること
- 2) 子どもからお年寄りまで診る家庭医の機能を提供すること
- 3) 障がい児・者やお年寄りの生活を支える市民活動を支援すること



〒321-2118 栃木県宇都宮市新里町丙357-14
 TEL 028-665-8890 FAX 028-665-8899
 E-mail hibari-clinic-01@theia.ocn.ne.jp
 URL http://hibari-clinic.com/



● この通信は、子どもから大人まで、障がいのある人もない人もどんな人も社会から排除されることなく、地域で一緒に生きていける世の中を目指して、ひばりクリニックが企画・編集しております。この通信についてのご意見・ご感想はひばりクリニックまでお寄せください。